

長寿命化工事の 他事業活用について

南陽市 農林課
農村整備係長 佐藤 智治

はじめに

【南陽市の概要】



- ・ 県南部の置賜盆地東北部に在り、特別豪雪地帯に指定されている。山形県の地形を人の横顔に見たてると「エクボ」に位置し、西洋梨に似た形の人口約3万人の市である。
- ・ 肥沃で広大な優良農地が拓けた田園地帯や傾斜地を利用した果樹、野菜等を組合わせた農村地帯があり、米、野菜の他にもさくらんぼやぶどう、りんご、洋なしなど多くの農産物が市の特産品となっている。

南陽市の多面的機能支払交付金事業について

【平成26年度～】
23組織
うち、広域活動組織
2組織

【平成29年度～】
23組織
うち、広域活動組織
※3組織

「鍋田でんでこ米(舞)の里
資源保全隊」が広域化

【平成31年度～現在】
21組織
うち、広域活動組織
3組織

広域化した
「鍋田でんでこ米(舞)の里
資源保全隊」と
「鍋田でんでこ米(舞)の里
環境保全隊」が合併し
「鍋田広域資源保全隊」と
なった。

南陽市鍋田地区について

- ・南部に位置する水田地帯。

- ・平成18年に水田5.1haを畑地化、さくらんぼ園にした。

- ・水路等は造成後40年以上経過し、地区内の多くが素掘り水路。

- ・多面的機能支払交付金事業については

「鍋田でんでこ米(舞)の里資源保全隊」と

「鍋田でんでこ米(舞)の里環境保全隊」の2組織が活動。

(※平成31年度～合併し、「鍋田広域資源保全隊」として活動中)

鍋田地区の熱い思い

全国の消費者に
うんまい
日本一美味しい
さくらんぼを
届けたい！

南陽市の魅力を
全国に
発信したい！



⇒畑地化事業により、地区が一丸となった。

立ちはだかる壁

しかし…

**観光果樹園オープンへ向け
未舗装道を舗装したいが、
多面の交付金だけでは
完成までに数年かかってしまう…**



他事業の検討①

農地耕作条件改善事業 ※自己負担あり

【地域内農地集積型】～農地中間管理機構による農地集積を推進する事業～

- ・ 更新整備 農作業道（ハード事業）
- ・ 未舗装道から幅4m以上の舗装道への更新
- ・ **定額助成** / 定率助成
- ・ 施工延長10m当たり9.5万円の助成

他事業の検討②

農地耕作条件改善事業に取り組む条件(抜粋)

農地中間
管理機構
との連携を
行うこと

事業費の
合計が
200万円
以上

受益者
2者以上

事業主体が
多面の活動
組織の場合は
広域活動組織
であること

採択要件

活動組織の広域化

鍋田でんでこ米(舞)の里資源保全隊

田:10,342a 畑:1,940a 計12,282a

⇒広域協定の規模要件を満たす(※南陽市は六法指定地域該当)

- ①臨時総会により、組織の広域化の構成員全員の承認を得た。
- ②農地耕作改善事業の取組についても、全員の承認を得た。
- ③運営委員会の開催
- ④広域協定書の締結
- ⑤事業計画の策定

①～⑤について
約1か月という短期間で
やり遂げた。

農地耕作条件改善事業の取り組み①

平成29年度 農道の舗装道への更新 L=680m

着工前



12月
工事着工
・
翌年5月
完成

※10月
事業採択

平成30年6月
観光果樹園
オープン！



農地耕作条件改善事業の取り組み②

平成30年度 用排水路設置工事 土水路からコンクリート水路への更新
用水路 L=739m 排水路 L=176m

着工前



11月完成



10月工事着工



農地耕作条件改善事業の取り組み③

令和2年度 用水路設置工事 土水路からコンクリート水路への更新

L=670m

着工前



11月完成



10月工事着工



事業スケジュール①

事業スケジュール【事務】(参考:令和2年度)

国

2月	採択申請
4月	採択決定通知
6月	変更申請
9月	変更承認
翌4月	事業達成報告

県

4月	補助金申請
6月	交付決定
9月	変更交付申請
11月	変更交付決定
12月	実績報告
翌1月	事務検査
翌2月	補助金交付

(7・10・1月 四半期報告あり)

予算要求時期までに
整備箇所^の延長や集積率等の
資料提出※前年度より準備必須!

事業スケジュール②

事業スケジュール【現場】(参考:令和2年度)※工事は稲刈り後を予定
《前年度:測量(県へ提出する資料作成のため施工延長のみ)》

7~8月

詳細測量(水路の基準高など)

9月

資材(コンクリート水路など)の入札

10月

着工

11月

工事完了・組織内の完了検査
出来形管理図などの作成

12月

工事の完了届を県へ提出

翌1月

県による完了検査



まとめ

畑地化事業により地区がまとまる

問題解決へ向け他事業を検討

活動組織を広域化し実施主体となる

長寿命化工事の他事業活用

広域化により、各地区の問題を地区全体で共有できるようになった。

《農地耕作条件改善事業》

- ・ 単年度での工事完了
- ・ 定額（定率）助成（自己負担あり）
- ・ 県・市・組織の連携と協働が不可欠

ご清聴ありがとうございました。



なんちゃん



ようちゃん